グループ名：A

タイトル 『リアルとバーチャルの調和が進んだ幸せな社会』

フォーマット：2050年の社会像と方策（全体共有に向けて）

グループ名：A

タイトル 『物理的距離から心の距離による都市へ　～多様性のある次世代コミュニティ～　　』

2050年の社会像
（価値観、ライフスタイル、製品・サービス、ビジネス、政策など）

① 物理的な都市コミュニティではなく、個人が有するヒト同士のつながりの多様性や価値観の共有により、心の距離感がもたらす次世代コミュニティ（2020年代の都市機能の革新）が形成されている。

② ①の結果、ヒト・モノ・カネが集まることで生じてきた2020年代の都市像で生じている地方格差や貧富の格差を低減し、ヒトが集まることにより生じる軋轢による自殺などの負の側面も低減されている。

③ ②のライフスタイルを実現しているのは、ヒトの感覚や心理を選択的につなげることを可能にし、身体の共有や感覚の再現を、すべて遠隔で行える可視化・共有・分析システムである。

③ 人間の感覚や心理が選択的につながることは、個人単位のQoL向上のみならず、医療や創造性を効率化し、人間性をも革新する。常日頃の経験やつながりが、個人の価値として認められ、個人や集団同士がより必要とし合い協創しやすい社会になる。

社会像を実現するための方策

◇科学技術

- 心や感情の変化を可視化・共有、身体共有技術
- 創造性や成長の機会を促進するレベリングAI
- ポータブル会話装置、話すべき相手の推奨
- ロボットによる自給自足
- デバイスレス決済（統一的）
- 体内移動ロボット
- 身体情報の共有による問診の代替、寿命予測
- （その他）カミナリ発電、振動ブラックホール（地震を建物が吸収して発電）、超高精度ナビゲーション（雪道でも）、人工衛星住宅

◇科学技術以外

上記の科学技術の社会実装に伴うルール

留意点・懸念点

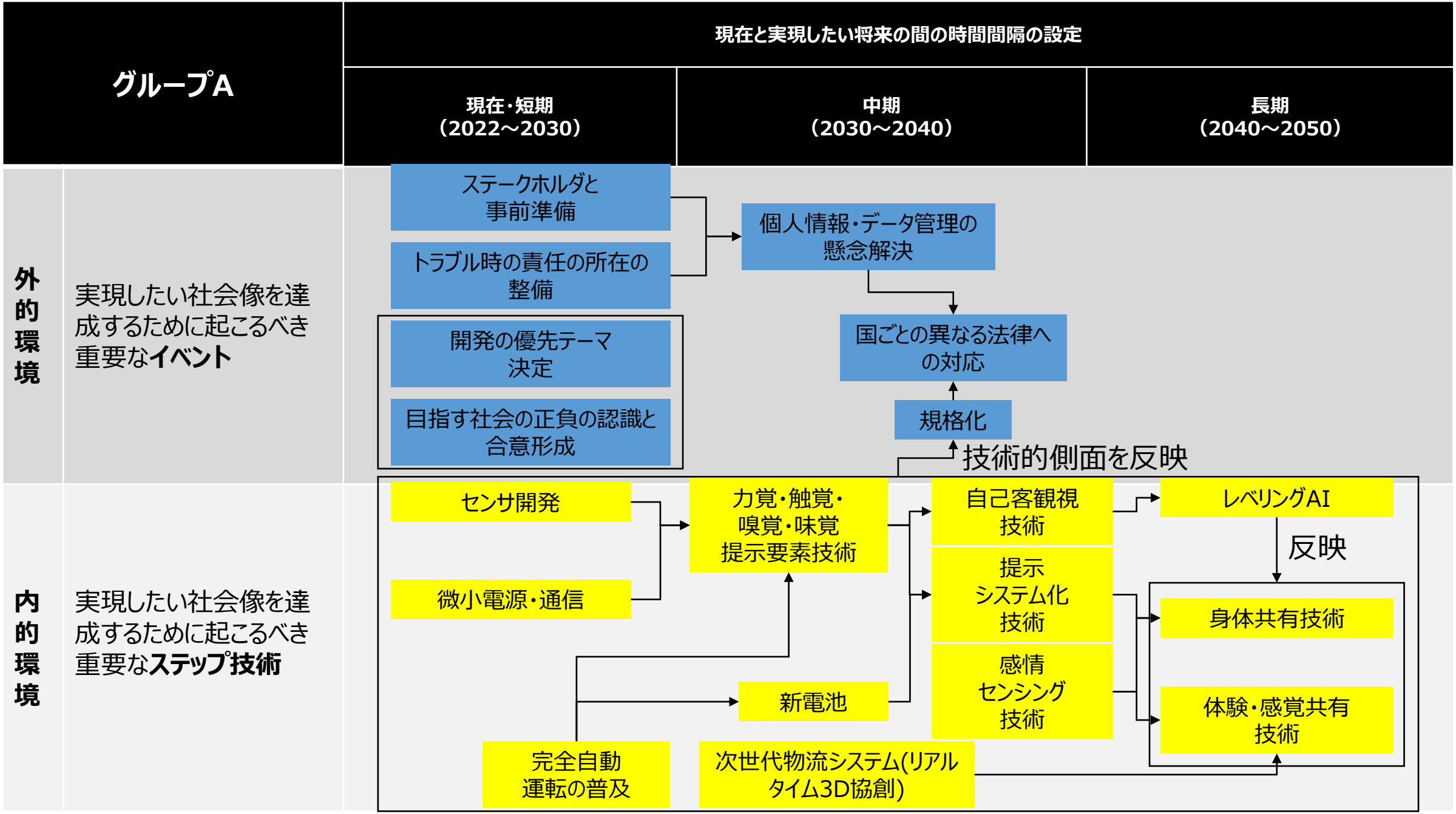
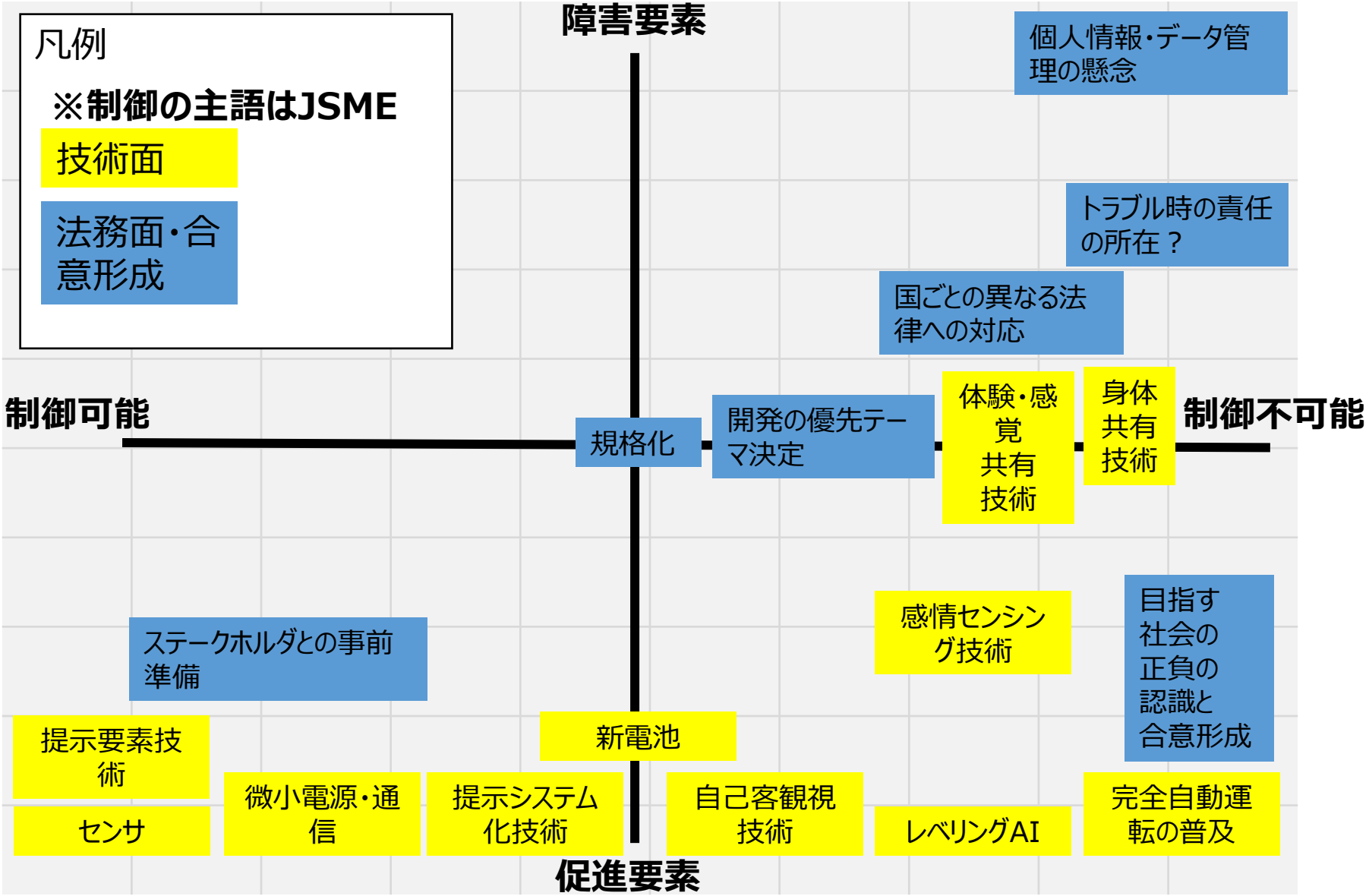
- 相手が人間じゃないケースも想定されるが、AIとのコミュニケーションって。。。（2050年からしたら時代遅れの杞憂かも。）
- 家族の在り方も変わるだろうが、各々が目指す方向が違う場合にどうなるのか。。。家族自体は大切にしたい。

<F1>【WS①で創発した社会像のレビュー】 13:30- 14:00

＊グループメンバー全員の同意確保

グループA		検討内容	
サマリ	**シナリオストーリーライン** （創発した社会像は、どんなものであるか？）	● 現在の物理的距離で最適化された都市ではなく、距離の制約から解き放たれた精神的な都市機能が実現している。 ● 多様性を認め合い、常日頃の経験やつながりの多様性が個人の価値となり、個人や集団同士が互いに必要とし合う協創しやすくなる。 ● また、地方格差や貧富の格差によるQOLへの悪影響が低減（財産に依存しないQOLに）され、ヒト同士が理解し合わないことによる軋轢が減っている。 ● これらの都市機能は、身体の共有・感覚の再現・モノの共有を遠隔で実現できていることがもたらしている。	
レビュー	コアポイント （戦略キーワード）	＜感覚・感情の読み取り＞ ・文字だけの認識から、感覚共有で相手のことを理解 →動きに関する感覚は、現状だとまだ満足できない。音と映像だけでは難しい？ ・ヒトは表情などの空気感で感情を感じてるため、空気感を定量化してセンシング →意図的に出している空気感については意図も読み取る。人間の感覚についての高度な理解。 ・感情センサ（モーション、温度、脳波を組合せて感情を推測） ・身体埋め込みセンサ、ウェアラブルセンサ（電源、通信） ＜コミュニティの円滑化＞ ・コミュニティ形成におけるAIの活用に関する評価指標とその合意形成 ・情報を自ら取りに行ける人，受け身な人，様々なタイプの人の存在に最適化 ・グループに入ることが本当に良いのか，一人が得意な場合も両方を認められるとよい ・人を認めるためには自己を客観視できるとよい ・話すべき相手の推奨 ・出来るだけ広い人と会話できるポータブル会話装置	＜可視化・再現・共有＞ ・次世代物流システム（遠隔で同じものが3Dプリント、リアルタイムで同じものを弄れる） ・身体共有技術、遠隔でのアクチュエーション（力覚・触覚等）を精度と安全性も担保した上で実現 ・空気感を含めて伝達して再現（アニメの世界ではある程度再現出来てるかも） →受け手側によって再現方法は最適なものが異なる ・レベリングAI（隠すべきところは隠して、共有しても良いところは共有） →情報流出・倫理的な懸念。レベリングAIは誰が作って誰が管理するのか、運用がセンシティブ。国によっては、感情操作に使われるのでは？感情をコントロールする技術の悪用も懸念されるため技術管理も課題。隠すべき情報が共有された場合に誰が責任とるのか。もし情報流出された際に、その情報を削除できるような仕組み（忘れられる権利）。
	課題を設定	・現状はSNSなどの物理的でないネットワークでも自殺の助長になっている側面があるので、これを防ぐ必要あり。 ・感情の伝達にはある閾値での制限が必要？社会不安に繋がる懸念も。個人間で感情が増幅するようなことが起こると、集団が不安定化する懸念あり ・トラブルが発生した際の責任の所在 ・国ごとに異なる法律が起こす懸念 ・開発の優先度を誰が決める ・提示装置だらけになる ・個人情報の線引き	

<F2>【社会像実現のための重要なステップの定義1】　14:00- 16:00



<F3>【社会像実現のための重要なステップの定義2】　16:00- 17:00